

情報発信基地

広大難読相談室

総合科学部英語講座

山田 純

十月五日、私どもの研究テーマ「難読症」が日本テレビの「ズームイン朝」で放送された。そして、翌日から一週間、問い合わせや資料の依頼など合計一〇〇件以上が押し寄せてきた。内容は大体、次の通りである。自分の子どもは難読症に間違いない。これで長年悩んでいた問題が吹っ切れた。ついては、どう対処すべきか、どうしたら治るのか、その方法を教えて欲しい等々。中には、こんなのもあった。東京には、どこに難読症相談係があるのか、どこの病院に行けばよいのか。また、千葉や福島の母親から、すぐにでも子どもを連れて広島大学へ行きたいが、都合はどうか。

難読症、英語では *Dislexia*、英米では人口に膾炙され、社会問題にすらなっている。それが、わが国の場合、心理学者や医師の中のごく一部にしか知られていない現象あるいは症候として埋もれてきた。なぜならば、一九六八年、慶応義塾大学医学部の牧田清志助教授がアメリカの精神医学誌に日本には難読

症児はほとんどいないという内容の論文を発表したためである。なぜ日本にはいないのか。それは日本語の書記体系にあるというのが牧田さんの考えであった。英語は、音素という極めて抽象的な言語単位をアルファベット文字によって表記する。スピーチアナライザーで音声のフォルマントを見てみると、例えば d の音はそれがどの母音に先行するのかわかれば変わっている。しかし、人間はそれと同じ音として聞き、見なければならぬ。難読症児はそれが苦手のようだ。それに対し、日本語は音節（正確にはモーラ）を表す仮名、さらには意味を持つ最小言語単位、形態素を表す漢字を用いている。これは学習がやさしく、難読症は発現しないというわけである。私どもは、これにチャレンジしてきた。広島市内の小学四年生一二五名を対象として音読や難読症診断の検査を行った。その結果、八名、全体の六％が難読症と判定された。この率は欧米並であると言える。この結果は、論文にまとめる前から「ジャパントイムズ」



総合科学部 山田純助教授、研究生アダム・バンクス

(十一月十日)などに大きく報道された。今、この原稿を書いている時期に論文はようやくまとまりつつある。「Dyslexia in Japan: Shattering a myth」と題して、できれば牧田さんが発表した学術誌に投稿したいと思っている。私の恩師、駿河台大学のダニー・スタインバーグ教授にコメントを求めたところ、*classic paper* になるかもしれないので、もっと入念に書くよう言われた。もう一度、データの再分析を行い、簡潔明瞭な論文に仕上げたいと思っているところである。さて、北は北海道から南は鹿児島まで(沖縄と宮崎は日本テレビが届かない)依頼があれば、「難読症を正しく理解するために」という資料を送っている。その内容を簡単にまとめてみた。

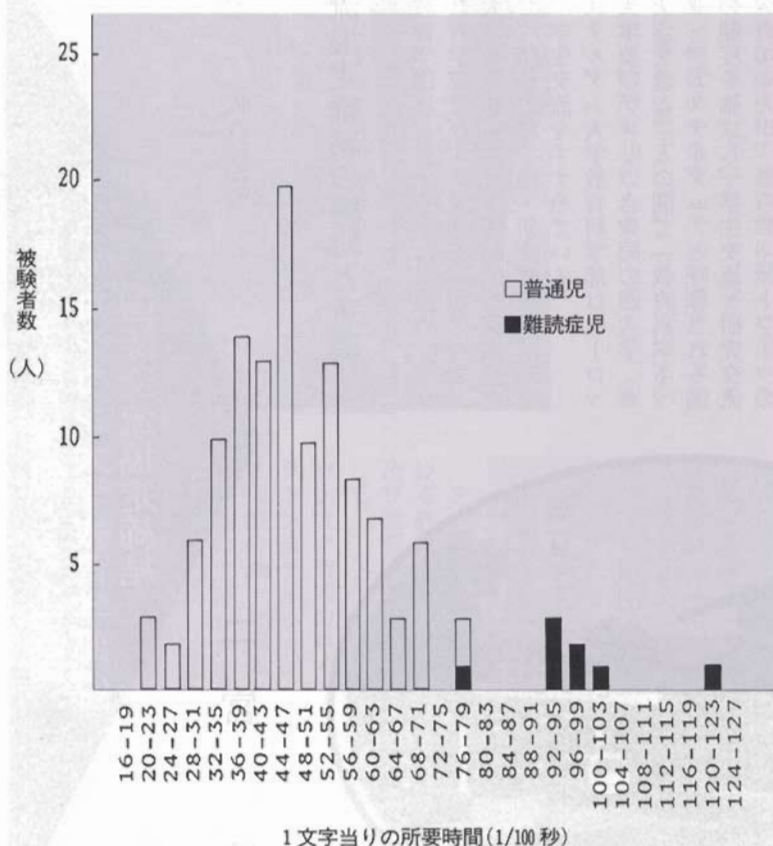


図 難読症児と普通児の音読速度(カタカナテキストによる)

定義 次の三つの条件が揃ったとき、難読症であると言える。

- (一) 知的障害や視覚障害がない。
 - (二) 学習環境が十分に整っている。
 - (三) 読み書きが異常に困難である。
- 診断の目安 読み書きが苦手であること

他に次のような事態が複合的に見られると、難読症の可能性が高くなる。

- (一) 簡単な数字の処理ができにくい。電話番号がすぐ覚えられない。引算や九九が苦手(ただし、数学が苦手であるわけではない)。

(二) 知能検査 (WISC-R) 結果に不均衡が見られる。日本の教研式のような時間のプレッシャーのある知能テストは、難読症児には不利であり、そのIQを鵜呑みにすべきではない。

- (三) その他として、次の事柄も見逃せない。
 - 生まれたときの体重は？
 - 歩き始めの時期は？
 - しゃべり始めの時期は？
 - 言い間違いは多い？ (「エベレーター」とか「ツベクルリン」と言ったり?)
 - 走るのは遅い？
 - シャツのボタンをはめるのが遅い？
 - 左右の混同は？
 - 自分の指の名前がすぐに正しく言える？

● 太り気味？あるいは痩せすぎ？

● アレルギー体質？風をひきやすい？

対処についてはケースバイケースであるが、自信を付けさせることと難読症と闘うことをうまく調和させることが大切だと思われる。

わが広大の学生や教官の中にも難読症が見られるかもしれない。日本語はともかく、英語を極端に苦手とする人たちはその可能性がある。

ロンドン大学の数学者K・M・ジャンソンズさんは今だに読み書きがうまくできず、黒板に英語を書かなければならないときは、それらしい語をぐちゃぐちゃと書き、あとは学生の推測に委ねるそうである。